

事務事業名	農作物獣被害対策補助事業	所属部	産業振興部	所属課	農林振興課
政策名	総合計画体系 (V)賑わいあふれる雲南市《産業・雇用》	所属G	森林バイオマスグループ	課長名	高野 耕治
施策名	(33)農業の振興	担当者名	藤本 万葉	電話番号(内線)	0854-40-1051 3706
基本事業名	(096)生産基盤の整備・保全	予算科目	会計 款 項 目 中事業 011 310 015 215 617	農作物獣被害対策事業補助金	

1 現状把握の部

(1)事業概要

①事業期間	②事業の内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	③開始したきっかけ(いつ頃どんな経緯で開始されたのか?)					
<input type="checkbox"/> 単年度のみ	農作物を有害鳥獣から守るため、電気柵等を購入・設置した農家に助成する事業。 主な業務内容 ①毎年4～5月に自治会回覧で事業募集を実施。②見積書を添付した申込書の受付。③申込締切後取りまとめ補助金額を算定。以後は④交付申請書の取りまとめ。⑤交付決定の通知。⑥領収書・写真を添付した実績報告書の取りまとめ。⑦請求書の取りまとめ。⑧補助金の支払い。補助率は原則1/2以内(但し、予算の範囲内)	旧6町村で実施していた事業を合併後継続している。					
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(16年度～)							
<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度(年度～年度)							

(2)トータルコスト

①事業費の内訳(概要)		事業費	単位	21年度(決算)	22年度(決算)	23年度(決算)	24年度(計画)	25年度(計画)	全体計画
農作物に対する獣被害を防ぐための電気柵等の購入経費の1/2補助。 補助金額:7,047千円		財源内訳	千円						
		国庫支出金	千円						
		県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
		一般財源	千円	3,408	3,336	7,047	4,000	4,000	
		事業費計(A)	千円	3,408	3,336	7,047	4,000	4,000	
②延べ業務時間の内訳(業務の流れ等)		正規職員従事人数	人	1	1	1			
自治会回覧で事業募集を行い、見積書を添付した申込書を受け付ける。募集締切後、補助金額を算定し交付決定通知を行う。実績報告書・請求書を取りまとめ、補助金を支払う。		延べ業務時間	時間	90	90	90			
		人件費計(B)	千円	343	350	355	0	0	
		トータルコスト(A)+(B)	千円	3,751	3,686	7,402	4,000	4,000	

(3)事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	指標名	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(目標)	25年度(目標)	最終(目標)
	23年度実績(23年度に行った主な活動)	⑤ 活動指標							
	申込者数:145名 補助対象事業費:16,158千円 補助金額:7,047千円	ア 申込者数	戸	114	93	145	100	100	
	24年度計画(24年度に計画している主な活動)	イ							
	例年申請数が多いため予算額を増額したが、補助率は2/5に削減し、補助対象物を耐久力が高い電気柵とワイヤーメッシュに限定する。	ウ							
		エ							
		オ							

目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	指標名	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(目標)	25年度(目標)	最終(目標)
	市内の農家	⑥ 対象指標							
	ア 農家数	戸	5,587	5,587	5,128	5,128	5,128		
上位目的	③ 意図(対象がどのような状態になるのか)	⑦ 成果指標							
	農作物を獣被害から守ることで、農家が安心して農業を営むことができる環境づくりを図り、生産意欲の向上と耕作放棄地の拡大阻止を図る。	ア 農作物獣被害面積	a	956	3,675	7,425	2,500	2,000	
	イ								
	ウ								
	④ 結果(どんな上位目的に結び付けるのか)	⑧ 上位成果指標							
	農家所得の向上。	ア 市内の農業所得総額	億円	▲ 3.2	▲ 3.4	▲ 2.3	▲ 2.6	▲ 2.6	
		イ							

(4)事務事業の環境変化、住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどうか変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	② この事務事業に関するこれまでの改革改善の取り組み経緯	③ この事務事業に対して関係者(市民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
平成17年の実績では申込者数200名、補助金額700万円となっており、申込は減少している。制度が浸透してきたことが伺える。一方、これまで獣害のなかった圃場に被害が発生するようになった。また、高齢化等により耕作放棄地が増加し有害鳥獣の活動範囲が広がることもあり、事業が必要だと意見が多い。	農作物の深刻な獣被害がある以上、事業は今後も必要である。現在は予算の関係上早めに締切を設け予算を配分しているため、締切後に申込された農家には対応できていない状況であるが、可能ならば希望者全員に補助できる仕組み作りを検討する必要がある。	電気柵を設置された農家によると、電機柵等設置することで、これまで獣害のなかった圃場に被害が出るようになり、新たに必要になるケースがある。また、高齢化等により耕作放棄地が増加し活動範囲が広がることもあり、今後とも事業は必要だとの意見がある。

事務事業名	農作物獣被害対策補助事業	所属部	産業振興部	所属課	農林振興課
-------	--------------	-----	-------	-----	-------

2 評価の部(SEE) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市(町)の政策体系に結びつくか? 意図することが結果に結びついているか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】↷ 農作物を獣被害から守ることで農業収入の安定・耕作意欲の維持向上につながり、農業の振興に結びついている。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市(町)が行わなければならないのか? 税金を投入して、達成する目的か?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】↷ 農産物を獣被害から守り、農産物の生産と生産意欲の維持向上を図るためには電気牧柵等の設置が必要不可欠であるが、高価であり農家負担を減らすためには市の助成が必要であるため妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか? 意図を限定・拡充すべきか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】↷ 市内の全ての農家を対象としており適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか? 成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか? 何が原因で成果向上が期待できないのか?	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】↷ 現在の取組の殆どは農家個人によるものであり、広い圃場を部分的に電気牧柵で囲っても限界がある。他の市町村等では集落の圃場全体を囲ったり、猪の棲家となっている山全体を囲ったりして効果を上げている所もあるため、事業内容の検討を図る必要がある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】↷ 電気牧柵等は高価で補助がなければ設置しない農業者もいるため、廃止等すれば獣被害面積の増加、農業者の耕作意欲の低下、市の農業生産額の低下を招く。
効率性 評価	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか? 類似事業との統廃合ができるか? 類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?	<input type="checkbox"/> 他に手段がある ↷ (具体的な手段, 事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】↷ 国の事業に鳥獣被害緊急総合対策があるが補助方法が異なるので連携は難しい。
	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか? (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】↷ 有害鳥獣の生息数を減らさない限りは事業費の削減にはつながらない。
公平性 評価	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方の工夫で延べ業務時間を削減可能か? 成果を下げずに正職員以外や委託でできないか?	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】↷ 本庁と、総合センターとの事務分担を工夫すれば業務時間の短縮の余地はあると思われる。
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担が公平・公正か?	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】↷ 締切までに申込のあった農家には補助金を交付しているが、締切後の申込には対応出来ていないため見直し余地がある。

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)																						
① 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	農作物の深刻な獣被害がある以上、本事業は必要である。現在は予算の関係上早めに締切を設け予算配分しているため、締切後に申込のあった農家には対応できていないため、可能ならば希望者全員に補助が行える仕組みづくりの検討が必要である。																						
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table> (廃止・休止の場合は記入不要)			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×		低下		×	×
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																							
締切を延長し可能な限り希望者に対し補助を行う場合、補助金額の確定が遅くなり購入の時期を逸してしまうことも考えられる。(合併前のように申請者全員に満額補助をし不足分を補正予算で対応することが理想ではあるが、現在の財政状況では望めない)																							